

浴室内のすべり止めマットには3つの役割がある

転倒予防

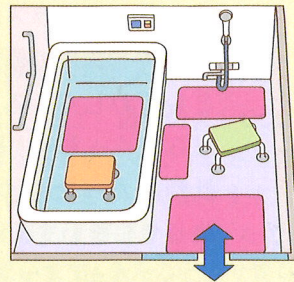
床面が濡れていたり、泡などが流し切れていないとすべりやすくなるので使用します。特に下肢筋力が低下している人は転倒しやすいので要注意です。

踏ん張りサポート

踏ん張る力が低下すると、立ち座りや歩行にも影響が出るので、足元に敷くことで、立ち座りの際の踏ん張る力をサポートし、動作負担を軽減します。

浴槽内での座位をサポート

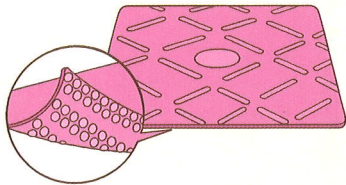
浴槽内で足をつまることが難しい場合は、臀部が不安定になり、座位を保ちにくくなるので、お尻の下に敷いて、座位の安定感をえます。



主なすべり止めマットの種類

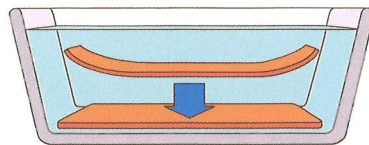
1. 吸盤で設置するタイプ

吸着面に複数の吸盤が付いているタイプで、比較的low価格なものが多いです。取り外しの際、無理に剥がしてしまうと裂けてしまうこともあり、また、浴槽にお湯を張った後に設置するとうまく空気が抜けずに吸着できない場合も…。



2. 置くだけで設置できるタイプ

吸盤タイプに比べ重さがあります。お湯を張った浴槽にも自重で沈みます。置くだけなので、移動が容易です。カットして使えるものや、洗い場に設置できるものも多くあります。



すべり止めマットは福祉用具として、介護保険の対象外

自治体によっては独自の給付サービスがある場合もありますので、確認が必要です。なお、住宅改修の制度を利用してすべりやすいタイル面などの床材を変更してすべりにくくすることが可能です。

すべり止めマットの選び方

POINT 1 すべり止めマットと床材との相性

すべり止めマットの素材と床材の相性が合わないこともあります。その場合、すべり止めの効果が最大に発揮されずにズレてしまったり、事故の危険性もあるため、必ず事前に確認が必要です。

POINT 3 サイズをよく検討する

すべり止めマットには「S・M・L」など、幅や長さの違うサイズ展開をしているものがあります。カットができるものもありますが、どこに設置するのかを検討しておきましょう。マットの上に浴槽内台やシャワーチェアなどを置くとガタついてしまうことがあるため、物は置かないようにしましょう。

POINT 2 床面の掃除をまめに行う

洗い場や浴槽内の床面に石鹸カスやヌメリなどが残っていると、すべり止めマットが役割をうまく果たさず、逆に滑ってしまい、事故のもとになります。

POINT 4 経年劣化の確認をする

すべり止めマットは消耗品です。長年使っていると経年劣化とともに効果も低下し、亀裂が入ったりしますので、定期的に確認し適宜新しいもの買い替えましょう。

新型コロナウイルス感染予防対策の観点から、自宅での入浴・シャワー浴が増えるにつれて、浴室の環境整備に関する相談が例年に比べて多くなっているように感じます。今回は浴室内での転倒防止についてすべり止めマットを中心に紹介します。



やすみ まこと  
八角 誠  
株式会社カラース  
福祉用具事業部・  
福祉用具プランナー・  
福祉用具専門相談員



One Point Advice

すべり止めマットを用いて浴室内をすべりにくくすることで、動作負担の軽減や転倒予防のほか、介助者の負担軽減にも大きな効果があります。使用目的や浴室環境に合わせて種類を選べます。選び方を誤ると事故につながることもあるので注意が必要です。検討する際は必ず、担当の福祉用具専門相談員にご相談ください。ご担当の利用者さんの購入したすべり止めマットの商品名や取扱説明書を確認し、ヘルパーさんたちの間でお手入れを含む使用方法や注意点を共有をすることをお勧めします。